

丹沢山麓で死亡したアカショウビンの胃内容物について

青木雄司

Yuji Aoki: Notes on Stomach Contents of Rubby Kingfisher *Halcyon coromanda* dead at Tanzawa-Mountain

はじめに

アカショウビン *Halcyon coromanda* はブッポウソウ目カワセミ科に分類され、日本には夏鳥として飛来する。神奈川県内では丹沢や箱根の山間部で繁殖しているが個体数は少なく、そのために希少種に指定されている（神奈川県レッドデータ生物調査団，1995；日本野鳥の会神奈川県支部，2002）。同じ科のカワセミ *Alcedo atthis* およびヤマセミ *Ceryle lugubris* は魚類を専門に食べるのに対して、アカショウビンは林床に生息する脊椎動物から無脊椎動物、さらに水中の魚類まで捕らえる幅広い食性をもつという（中村，1997）。

著者は2005年に丹沢山麓で死亡した個体の外部計測および胃内容物調査を行い、興味深い知見を得ることが出来たのでここに報告する。なお、この個体は本剥製として平塚市博物館に収蔵されている。

死亡状況

2005年6月18日8:40頃、秦野市堀山下1513にある神奈川県立秦野ビジターセンター（標高290m）の窓ガラス下で死亡して間もない個体が発見された（図1, 2）。

嘴の根元から大量に出血があり、窓ガラスに衝突したものと考えられた。この個体は解剖の結果、オスであることが判明した。なお、著者は現場近くでアカショウビンの声や姿などによって生息確認をしたことはない。

計測値

体重	90.0g
全長	266.5 mm
自然翼長	124.0 mm
尾長	71.5 mm
嘴峰長	
露出嘴峰長	56.8 mm
全嘴峰長	57.9 mm
嘴縁長	66.5 mm
嘴高	16.0 mm
嘴幅	17.1 mm

胃内容物

体長85mm程のエビガラスズメ（チョウ目スズメガ科）の終令幼虫1個体のみが胃から見つかった（図3）。中



図1. 側面図



図2. 上面図



図3. 胃内容物
エビガラスズメ終齢幼虫（右側が頭部）

島・山本（2004）によれば、エビガラスズメはサツマイモ・ヒルガオ・アサガオなどを食草とし、県内では湘南を除く平野部から山地までの全域に分布するという。

エビガラスズメの幼虫は頭部と尾部が腹部にめり込むように直径1cm程の球形に近い形になっており、ペリットとして吐き出される直前のものと思われた。また、消化作用によって内臓・筋肉などは消化され表皮だけとなり、表皮の色・模様等はほぼ脱色されていた。

おわりに

アカショウビンは神奈川県内では個体数が少なく、食

性などの生態がよくわかっていない。この記録が生態解明の一助になれば幸いである。なお、本報告で用いた学名は日本鳥学会（2000）に従った。

胃内容物の同定をいただいた日本蛾類学会の山本光人氏、解剖のご指導をいただいた神奈川県自然環境保全センターの加藤千晴氏、死体を拾得した村上美奈子氏に厚くお礼を申し上げます。

引用文献

- 神奈川県レッドデータ生物調査団，1995. 神奈川県レッドデータ生物調査報告書，257pp. 神奈川県立生命の星・地球博物館．
- 中島秀雄・山本光人，2004. チョウ目（ガ類）．神奈川県昆虫誌，pp. 907-1158. 神奈川県昆虫談話会．
- 中村浩志，1997. アカショウビン．樋口広芳・森岡弘之・山岸哲編，日本動物百科鳥類Ⅱ，p50. 平凡社，東京．
- 日本鳥学会，2000. 日本鳥類目録改訂第6版，345pp. 日本鳥学会，帯広．
- 日本野鳥の会神奈川県支部，2002. 20世紀の神奈川の鳥－神奈川県鳥類目録Ⅳ－，340pp. 日本野鳥の会神奈川県支部，神奈川県．

（日本鳥学会）